

19 子どもが巻き込まれるネット詐欺・犯罪の最新事例

スマホや SNS が当たり前になった今、子どもたちがネット詐欺や犯罪に巻き込まれるケースが後を絶ちません。最近では、オンラインゲームや SNS を通じて見知らぬ相手とつながり、重大な被害に発展する事例も増えています。保護者として、最新の傾向を知り、家庭での対策を考えることが重要です。

警察庁の統計によると、SNS をきっかけとした児童の被害は令和 6 年も高水準で推移しており、特に小学生の被害件数は平成 27 年の約 3 倍に増加しています。たとえば、ゲーム配信を通じて知り合った相手に「コスプレ撮影をしよう」と誘われ、児童買春などの犯罪に巻き込まれた事例も報告されています。また、オンラインゲーム内で「女性」を名乗る人物に下着姿の写真を要求され、実際には成人男性だったというなりすまし被害も発生しています。

こうした犯罪は、子ども自身が「友達募集」や「趣味の共有」といった一見無害な投稿をしたことがきっかけになることもあります。SNS に投稿されたプロフィールや日常の写真から、個人情報特定されてしまうケースも少なくありません。

保護者ができる対策としては、まず「ネット上の危険性」を子どもと共有すること。「知らない人やりとりしない」「個人情報は SNS に載せない」といった基本ルールを家庭で話し合しましょう。また、フィルタリングやペアレンタルコントロールの設定も有効です。何より大切なのは、子どもが困ったときにすぐ相談できる関係性を築いておくことです。

ネットの世界は便利で楽しい反面、危険も潜んでいます。最新の事例を知り、家庭での対策を強化することが、子どもを守る第一歩です。

出典：警察庁「インターネット利用に伴う子供の被害等の状況について」
政府広報「こどものスマホ利用を安全に！ネット犯罪から守るには」

20 AI 時代の子育てと情報モラル：保護者が知っておくべきこと

AI 技術の進化により、子どもたちの生活は大きく変わりつつあります。学習支援アプリ、チャットボット、画像生成ツールなど、AI は便利で魅力的な存在として身近になっています。しかしその一方で、情報モラルの重要性はこれまで以上に高まっています。保護者として、AI 時代に必要な「新しい見守り方」を知っておくことが大切です。

まず理解しておきたいのは、AI が提供する情報は必ずしも「正しい」わけではないということ。生成 AI は膨大なデータをもとに回答を作りますが、誤情報や偏った内容が含まれることもあります。子どもが AI を使って調べものをする際には、「情報の真偽を自分で確かめる力」が必要です。子どもと一緒に「この情報は本当に正しいのかな？」と確認する習慣をつけましょう。

また、AI とのやりとりは一見無害に見えても、個人情報の入力や不適切な質問がトラブルにつながることもあります。「名前や住所は入力しない」「困ったことがあったらすぐに相談する」といった基本ルールを家庭で共有しておくことが重要です。

さらに、AI を使ったコンテンツ生成（画像・文章など）では、著作権や倫理の問題も関わってきます。「誰かの作品を勝手に使っていないか」「差別的な内容になっていないか」など、子どもが創作活動をする際にも情報モラルの視点が欠かせません。

AI は子どもたちの可能性を広げる素晴らしいツールです。しかし、それを安全に活用するためには、保護者の理解とサポートが不可欠です。技術に振り回されるのではなく、子どもとともに学び、考え、使いこなす姿勢こそが、AI 時代の子育てに求められる情報モラルです。